

エコパルなごや

秋号
Vol.104

かんきょうをたのしく学ぶ

とくしゅう
特集

藤前干潟について学んでみよう!! ～ラムサール条約登録20周年を迎えて～



ふじまえひがた
藤前干潟

藤前干潟はシギ・チドリ類やカモ類などの渡り鳥たちの重要な中継地であり、訪れる人々の心をなごませる自然豊かな干潟です。また、渡り鳥にとって重要な場所であるだけでなく、名古屋市民が循環型の社会をめざすきっかけとなったのが藤前干潟です。藤前干潟は2002年11月にラムサール条約の「国際的に重要な湿地」に登録され、2022年11月18日に20周年を迎えます。

今回は藤前干潟とはどんなところなのか、藤前干潟がラムサール条約に登録されるまでの経緯や干潟の保全がなぜ必要なのかを学んでみましょう。

さらに、条約湿地として20周年を迎える藤前干潟をより身近に感じてもらうため、「藤前干潟ふれあい事業」として予定されているイベントを紹介します。



いろいろな話題をお届けします。

とくしゅう
特集

藤前干潟について学んでみよう!! ～ラムサール条約登録20周年を迎えて～

エコパル
NEWS

特別ワークショップ、マンスリー企画展示
なごや環境大学、藤前干潟ふれあい事業のご案内

1. 藤前干潟ってどんなところ？

みなさんは「干潟」ってどんなところか知っていますか。

潮が満ちているとき（満潮）は水面下にあり、潮が引いたとき（干潮）にあらわれる平らな砂地や泥地がひろがっている遠浅の浜を「干潟」といい、河川などによって運ばれてきた土砂が海岸や河口部などに堆積してできています。

「干潟」では、河川から運ばれる土砂に含まれる豊富な栄養素のおかげで多くの生きものが生息しています。「干潟」は、多くの生きもののすみかやえさ場となり、人が自然とふれあう場所をあたえてくれます。

藤前干潟は名古屋市港区と海部郡飛島村にまたがる場所にあり、伊勢湾に流れ込む庄内川、新川、日光川が合流する河口にあります。飛来する渡り鳥たちにとっては、323ヘクタールもの面積がある都会に残された貴重な湿地で、ラムサール条約に登録されています。その広さはバンテリンドーム ナゴヤ約67個分にもなります。

藤前干潟にはゴカイ類、カニ類、貝類など多くの底生生物が生息しており、干潮時にはそれらをえさとする渡り鳥のシギやチドリなどの姿が多くみられます。藤前干潟は渡り鳥たちにとっても大切な海のレストランなのです。



上空から見た藤前干潟

～藤前干潟でみられる生きものたち～

● 春と秋にみられる鳥たち（旅鳥） ●



ハマシギ



ダイゼン（夏羽）

旅鳥（たびどり）

春・秋の移動の途中に日本に立ち寄り、主に日本より北の地方で繁殖し、日本より南の地方で冬を越す。

※ハマシギとダイゼンは冬も観察できる。

写真提供：名古屋市野鳥観察館

● 冬にみられる鳥たち（冬鳥） ●



オナガガモ



マガモ

冬鳥（ふゆどり）

日本より北の地方で繁殖し、秋から冬にかけて日本にわたってくる。春に日本を離れ、繁殖地に移動する渡り鳥。

写真提供：名古屋市野鳥観察館

● 一年を通してみられる鳥たち（留鳥） ●



カワウ



ミサゴ

留鳥（りゅうちょう）

季節的な移動はしない鳥。一般的には同じ地域に一年中生息しているが、ミサゴは特に秋～冬にかけて飛来数が増える。

写真提供：名古屋市野鳥観察館

● 泥や水の中のいきもの（底生生物） ●



ヤマトシジミ



ヤマトオサガニ

底生生物（ていせいせいぶつ）

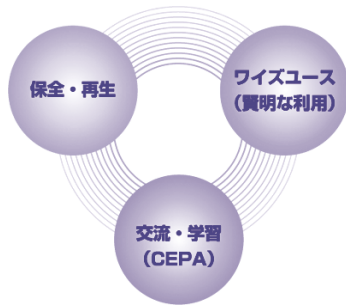
水域に生息する生物の中でも、泥の中やその表面に生息する生物で、生息場所の水質などの生活環境に影響を受ける。

写真提供：環境省

2. 藤前干潟とラムサール条約

「ラムサール条約」って何？

1971年2月2日、国際会議において「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が採択されました。この条約は、国際会議が開かれたイランの都市ラムサールにちなんで「ラムサール条約」と呼ばれています。ラムサール条約とは、重要な干潟や湿地とそこにすむ動物や植物を世界のみんで守っていこうという取り決めのことです。日本では藤前干潟をはじめ53か所の湿地が登録されています。(2022年3月現在)



ラムサール条約の3つの柱

条約の目的である湿地の「保全（・再生）」と「ウィズユース（賢明な利用）」、これらを促進する「交流、学習」。これら3つが条約の基盤となる考え方です。

出典：環境省ホームページ

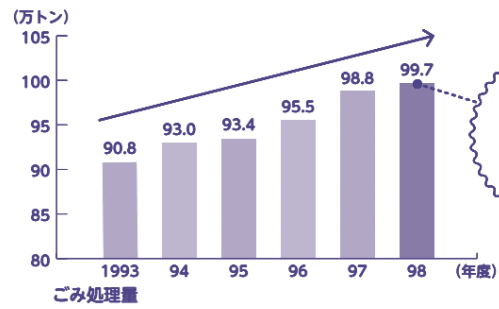
藤前干潟がラムサール条約に登録されるまで

戦争の終わった1945年以降、名古屋の経済をたてなおすため、名古屋港では工業用地としての利用や大規模干拓で埋め立てが進み、最後にかろうじて残されたのが藤前干潟です。

1981年、名古屋市は年々増え続けるごみの処理に対応するため、今まで使用していた処分場に代わって、藤前干潟に新しいごみの埋め立て処分場をつくる計画をたてました。

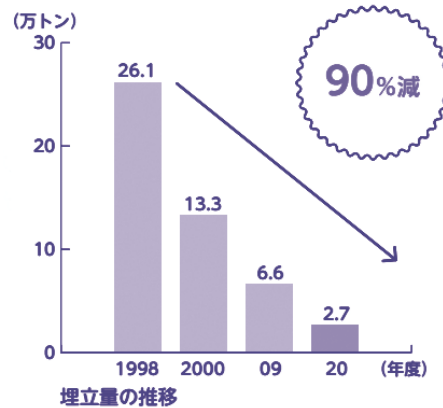
しかし、藤前干潟は渡り鳥をはじめ多くの生きものが生息する大切な場所であったため、埋め立て中止を求める市民の声が高まりました。

名古屋市のごみ量は増え続け、1998年度にはついて100万トンに迫りました。「増え続けるごみの処理が大切



か、それとも渡り鳥の休憩場所が大切か、名古屋市の出した結論は「ごみの処理も渡り鳥もどちらも大切」というものでした。そして、1999年1月に埋め立て計画を中止したのです。でもごみがなくなるわけではありません。2月には「ごみ非常事態宣言」を出し、ごみ量を2年間で20万トン削減するという大きな目標にむけて市民、事業者、行政が一体となり徹底的な分別・リサイクルに取り組みました。その結果、2年後にはごみ量が76.5万トンとなり「ごみ非常事態宣言」に掲げた目標を達成することができたのです。

その後もごみ減量の努力を続けた結果、今では埋め立て量も10分の1近くまで減っています。



環境省は2002年11月1日、藤前干潟を国指定鳥獣保護区に指定し、埋め立て、干拓、工作物の設置などを制限することによって干潟を守っていくことにしました。そして、この干潟が日本有数の渡り鳥の中継地として国際的にも重要であることから、2002年11月18日、ラムサール条約の「国際的に重要な湿地」に登録され、現在に至っています。

3. 藤前干潟の環境を守るためにわたしたちにできること

藤前干潟には渡り鳥の休憩場所や生きものの生息場所、水質をきれいにするなどの役割があります。海の汚れの原因となっている有機物や栄養塩類は干潟の微生物によって分解され、この微生物は干潟に生息する貝やカニ類などの底生生物に食べられ、その底生生物は渡り鳥や魚類に食べられます。こうした干潟の生きものの「食べる・食べられるの関係」(食物連鎖)が海の浄化に役立つ

ているのです。

その一方で、藤前干潟には海や河川から漂着したペットボトルやびん、プラスチックごみ、使えなくなったつり針や糸などのごみもみられます。飛来した野鳥や泳いでいる魚がつり糸に絡まるなど、こうしたごみが干潟の生きものたちの生活を脅かし、最終的には干潟の生態系をこわすことになるのです。

藤前干潟にかかわるさまざまな生きものの生活を守るためにわたしたちにできることはあるのでしょうか。



写真提供：環境省

○藤前干潟のしことを知る

藤前干潟は守らなければならない貴重な場所であると同時に、さまざまな発見もできる楽しい場所です。藤前干潟周辺には、野鳥観察館や稲永ビジターセンター、藤前干潟活動センターなどの施設があり、見たり聞いたりしながら楽しく藤前干潟を学ぶことができます。

藤前干潟について、施設で勉強したり、野鳥や干潟の生きものを観察したり、イベントに参加するなど、藤前干潟のことを知るところから始めましょう。

○藤前干潟を汚さない（河川・海を汚さない）

最近の藤前干潟では海や河川からのペットボトル、ビニル袋、発泡スチロールなどの漂着ごみや不法投棄などが非常に多く見受けられ、干潟に生息する生きものやわたしたちの生活にも悪影響を及ぼす可能性があります。

とくに漂着ごみには、わたしたちの生活から出されたごみが多く含まれます。陸地で捨てられたごみが雨や風などで河川に流れ込み海に流れつきます。藤前干潟のごみを増やさないため、自然環境を守るため絶対にごみや資源のポイ捨てをしないようにしましょう。

4. 藤前干潟に行ってみよう

名古屋の南西部にある藤前干潟は、都会に残された貴重な干潟で、ここには四季折々の表情があります。また、その季節ごとにさまざまな渡り鳥や干潟に生息する生きものに出会えます。

みなさんもラムサール条約登録20周年を迎える藤前干潟に実際に行ってみて干潟の自然にふれあってみましょう。（藤前干潟に入る場合は、危ない場所もあるため、干潟体験などのイベントに参加することをおすすめします。）



干潟体験



野鳥観察

藤前干潟周辺の施設



名古屋市野鳥観察館

住所：名古屋港区野跡4-11-2 稲永公園内

TEL：052-381-0160

交通：あおなみ線「野跡駅」下車、徒歩15分

市バス「野跡駅」下車、徒歩15分

駐車場有



環境省稲永ビジターセンター

住所：名古屋港区野跡4-11-2 稲永公園内

TEL：052-389-5821

交通：あおなみ線「野跡駅」下車、徒歩15分

市バス「野跡駅」下車、徒歩15分

駐車場有



環境省藤前干潟活動センター

住所：名古屋港区藤前2-202

TEL：052-309-7260

交通：三重交通バス（イオンモール名古屋茶屋行き）

「南陽町藤前」下車、徒歩15分

駐車場有



- 開館時間 9：00～16：30
 - 休館日 毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）、第3水曜日（祝日の場合は第4水曜日）、年末年始（12月29日～1月3日）
 - 入場料 無料（団体利用については事前予約が必要です）
- （なお、環境省の管轄する稲永ビジターセンターと藤前干潟活動センターの2施設は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開館時間を9：00～16：00に短縮しています。）

5. 藤前干潟ふれあい事業を紹介します

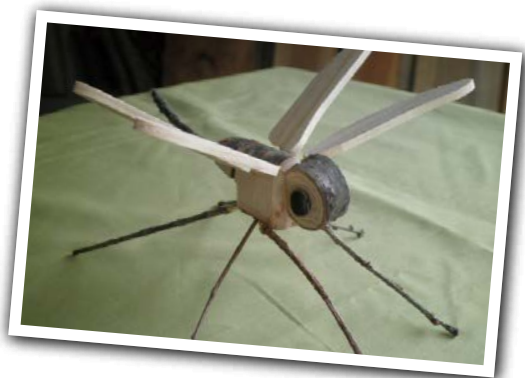
藤前干潟の重要性を伝えるため、行政やNPOなどが協働し、1年を通して干潟体験での生きもの観察や野鳥観察などさまざまな活動を行っています。

藤前干潟ふれあい事業では、ラムサール条約に登録された11月を中心に登録20周年を記念したさまざまなイベントや講座を予定しています。ぜひみなさん藤前干潟に遊びに来てくださいね。くわしくは裏面の「藤前干潟ふれあい事業のご案内」をご覧ください!!



「せん定枝を使ったトンボづくり」

- 日時** 10月29日(土) 10:30～11:00、13:00～13:30
- 対象** 3～12歳の方(小学校3年生以下の方は保護者同伴)
- 定員** 各20名(先着申込順)※10月12日(水)9:30受付開始
- 費用** 一作品500円
- 内容** せん定枝を使った楽しい工作です。
手のひらサイズのトンボを作ります。
- 講師** もくもく楽舎 たけちゃん工房



「せん定枝を使ったトナカイづくり」

- 日時** 12月18日(日) 10:30～11:10、13:00～13:40
- 対象** 3～12歳の方(小学校3年生以下の方は保護者同伴)
- 定員** 各20名(先着申込順)※11月11日(金)9:30受付開始
- 費用** 一作品500円
- 内容** せん定枝を使った楽しい工作です。
手のひらサイズのトナカイを作ります。
- 講師** もくもく楽舎 たけちゃん工房



マンスリー企画展示



10月
テーマ

せん定枝を使った
動物たち

出展者

もくもく楽舎 たけちゃん工房

内容

せん定枝などでつくった動物たちが、各季節を楽しく過ごしている様子や元気良く通学して授業を受けている様子などを展示します。

11月
テーマ

藤前干潟
ラムサール条約登録
20周年記念！

出展者

藤前干潟ふれあい事業実行委員会

内容

2022年11月にラムサール条約登録20周年を迎える藤前干潟の豊かな自然と魅力、楽しみ方をご紹介します。

12月
テーマ

環境白書表紙絵
入賞作品展示

出展者

環境局環境企画課

内容

「令和4年度版 名古屋市環境白書 表紙絵募集」で入賞した作品を展示します。

エコパルなごやのメールマガジン「エコパル通信」のお知らせ

エコパルなごやのイベントや展示情報、なごや環境大学の講座情報など最新情報をタイムリーにお知らせします。エコパルなごやウェブサイトのトップページ「エコパル通信」の登録フォームにメールアドレスを入力すると登録できます。



なごや環境大学



「なごや環境大学ガイドブック2022後期号」 配布＆ウェブサイト公開中！

子どもも大人も気軽に参加できる環境講座を開催しています。自然体験、工作、ワークショップから自宅で学べるオンライン講座までいろいろな講座があります。

詳しくはウェブサイトや無料配布中の冊子「なごや環境大学ガイドブック2022後期号」をご覧ください。

ガイドブック配布場所

- ▶各市区役所・支所
- ▶図書館
- ▶生涯学習センター
- ▶スポーツセンター等



なごや環境ハンドブック 好評発売中！



ワークショップ用の資料づくりや調べ学習の参考テキストとして役立つ1冊。

ワークシート付、税込1,000円。

地球環境から身近な名古屋の環境まで知識を身につけ行動するきっかけに。ご購入はエコパルなごや窓口ほか、書店にて。お手元に置いて学びのパートナーにしてください！

愛岐の里山 たいけん隊

岐阜県多治見市諏訪町にある愛岐処分場は、名古屋市のごみの最終処分場。敷地内には、諏訪町の協力により再生した自然豊かな里山があります。里山での自然体験や処分場見学など、愛岐ならではの体験を通じて、秋を楽しみましょう。お昼には、地元の食材をメインに使ったおいしい手作りごはんをいただきます。

※状況により、一部プログラムが変更になる場合があります。雨天中止。

日時 11月12日(土) 8:20～17:00

場所 名古屋市愛岐処分場(多治見市)

受講料 1,500円(バス代・保険料)
当日ご持参ください。

対象 小学4年生から中学2年生まで

定員 15名

申込 10月28日(金) 必着・抽選



お申込時の記入事項

- ①お名前・ふりがな、②学校名、③学年、④性別、⑤ご住所、⑥電話番号、⑦FAX番号、⑧メールアドレス、⑨アレルギー・バス酔いの有無

お問合せ先

「なごや環境大学」
実行委員会事務局
(エコパルなごや内)

〒460-0008 名古屋市中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ13階
(TEL&FAX) 052-223-1223 (E-mail) jimun@n-kd.jp (HP) <https://www.n-kd.jp>



藤前干潟ふれあい事業のご案内

藤前干潟ふれあいデー 2022

～ラムサール条約登録20周年記念～

藤前干潟のラムサール条約登録20周年を記念したイベントを実施します。テーマは「未来へつなごう！藤前干潟」。この機会にぜひ藤前干潟に遊びに来てね♪

日時 11月19日(土) 9:30～16:00

対象 どなたでも

会場 【藤前会場】 藤前干潟活動センター

【稲永会場】 稲永ビジターセンター、名古屋市野鳥観察館

内容 ステージ、記念式典、ミニシンポジウム、ワークショップ等

参加無料

申込不要



藤前干潟ふれあい事業の
YouTubeチャンネルを開設しました！

藤前干潟のイベントや
いろんな動画を
アップしていくよ！



藤前干潟
ふれあい事業
開催情報は
こちらから



名古屋市環境学習センター エコパルなごや

申込・問合せ先

TEL: 052-223-1066 FAX: 052-223-4199

<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/ecopal/>

E-mail: a2231066@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号
伏見ライフプラザ13階

地下鉄東山線・鶴舞線の伏見駅「6番出口」徒歩7分

■開館時間/午前9時30分～午後5時 ■入館料/無料

■休館日/毎週月曜日 祝日の場合はその翌平日

年末年始 12月29日～1月3日

エコパルなごや



(消防署があるビル13階)

